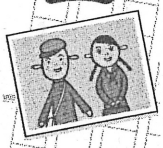
われら同級生



飯田高校第5回卒

—627—

ああ白雲の谷深く　都の塵も通い来ぬ

過日飯田高校第5回卒高松会が飯田市内で開催された。毎回当番幹事を決めて飯田下伊那に在住している同期生が5月ごろ開き、聞きつけて東京・関西からもかけつけ参加もして開催されてきている。

私どもは教育の変革期にいつも遭遇し、小学校入学時には尋常小学校から国民学校となり、また6年生となった時、6・3・3制が制定され、新制中学となり第1期生で男女共学の最初となった。

現在は飯田高校だが、飯田高松高校であったときに入学したのである。

私どもは昭和28年卒で、今年は卒業して65年を迎えたのである。互いに83～84歳となり、ここに集まったのである。開催通知をだすと足腰が痛み、体調が不良などで欠席者も多い中28名が集まり、恒例の写真撮影から始まる。総合司会を岡田慈夫君が担当し、吉河省治君の先導で校歌を、校歌の中に九百の健児とあるがそのままで歌うとのことで歌う。

今村衛幹事長の挨拶で高齢化社会となり、百歳時代を迎える時代となり、われわれも健康でできれば2027年の開通予定のリニアに乗りたいものであると、そして遠方より見えた岡島貞美君が挨拶をする。彼は毎回出席されており、兵庫県川西市からで、来ることが出来るうちは来たいとの元気な挨拶をする。

続いて物故者黙祷を岡田勇雄君の先導で。なんと現在分かっているだけでも116人と多くを数える。ご冥福を祈る。

ついで次期幹事を指名いたし、去年も演奏した今村邦彦君が春の海の尺八を演奏、続いて医師である蟹江孝之君の高齢者の健康についての貴重な講演を聞く。

内容は老化について、寿命を縮める要因、ブレスローの七つの健康習慣について等。その中に喫煙しないとか、定期的に運動するなど、この中の一つでも実行して来年のこの会に出ようではないかといい、大変参考になった。

いよいよ宴会となり昨年の幹事長の吉沢健君の乾杯で始まる。あちこちで話が盛んになり、予定の時間はたちまち過ぎる。次期幹事長の沢柳紀彦君の力のこもった万歳で終宴となり、吉河省治君の閉会の言葉で解散する。本当に名残尽きず別れを互いに惜しみつつ帰宅した。

歳を取ればとるほど同期は良いものだと痛感し、是非来年もこのメンバー全員が参加できることを祈る次第である。

（文責・今村）